

令和4年度 第2回沼津市障がい者自立支援協議会（委員意見）

(1)沼津市障がい者自立支援協議会の開催状況について

①個別支援会議の開催状況について

- ・以前は、相談支援事業を行っているセンターの事業所の参加が多かったイメージでしたが、最近では他の事業所の参加が多くなっている様でいい傾向だと思ふ。
- ・コロナの状況に左右される面はありますが、ニーズはもっとあるのではないかと思いますので、来年度以降の掘り起こしが改めて必要になるかと思ふ。
- ・コロナ感染拡大の波が続いていますが、必要な方に必要な支援会議が実施されるようお願いします。
- ・コロナの影響が続いている様ですね。少しずつ通常の開催が出来る様になってくるのではと思ふ。
- ・全体の開催回数における「知的」の割合が令和3年度は高かったことに目が向きました。会議を（コロナ禍においても）開催しやすかった、緊急性があった、即時性が求められた等の背景があるようでしたらお教えいただきたく存じます。
- ・コロナ以前と比較するとケース数、新規ケース数が半数より少ない状況にある。支援が受けられず困っている人が増えているのではないかと思われる。
- ・課題検討委員会は結論部分では総論部分では毎月とりあげているように思いました。
- ・コロナ禍の中、会議の開催をなるべく控えながらも、工夫しながら会議が行われていると感じました。必要な方の個別会議がスムーズに行われる日が来ることを望みたいです。
- ・支援センターによって、0件から15件と幅広いですが、何か特徴的な理由がありますか？特定相談（計画相談）事業のみの事業所からの報告はありますか？
→ 委託相談事業所以外の特定相談事業所からの報告は2件、就労支援事業所からの報告が2件あります。コロナ禍で件数が少ない状況が続いたことや、自立支援協議会の説明会を行えなかったことで、個別支援会議報告書の周知が不十分になっていることも影響していると思われまふ。改めて説明会を実施するなど、周知・啓発を行いたいと思ふています。
- ・コロナ下であるために個別支援が求められるケースが潜在的に発生していたと実感するが、会議の開催の制約がある中での部署間調整の努力はどうであったかのご苦勞を対面会議再開の時紹介いただきたい。

②運営部会の開催状況について

- ・ 支援サービス充実のための情報を共有していただきたいです。
- ・ 日中サービス支援型グループホームの運営がまだ軌道に乗っていない状況が分かりました。障がい者、家族にとっては大切な制度なので上手く軌道に乗せてほしいものです。
- ・ 中止することなく書面開催等工夫をしながらの共有、報告がなされ、一つ一つ整備がなされているように思います。
- ・ 年間2回の部会開催で今後改善される事件はどのような内容か、対面会議の時紹介していただきたい。

③専門部会の開催状況について

- ・ 各専門部会とも関係機関同士の連携が大切だと思います。医ケア児のニーズは多様化してきていますので、個別の支援内容の理解とそれに対応した取り組みを引き続きお願いします。
- ・ 各部会の課題が抽出された後の対応、検討内容、結果等を知りたいです。
- ・ それぞれの専門部会でとても有意義な会議が開催できたと思います。
- ・ 不登校に関しては、児童生徒の状況に応じ、関係機関との連携が必要になってくる。今後も様々なケースが出てくると思われるので、共通認識をしながら連携を進めていきたい。
- ・ 自分が所属している部会はもちろんのこと、それぞれの部会が活発に協議され、課題を持ち寄っている。よりよいサービスの向上に向けて反映される日も近づくといいですね。
- ・ 組織間調整は円滑に行われているのでしょうか。

(2)日中サービス支援型グループホームの評価について

- ・ 他の事業も同様の問題、課題を抱えている様に思う。
- ・ 引き続き丁寧な評価と指摘事項についての確実な改善の確認をお願いします。
- ・ 毎年の評価は、記載されているように事業所、評価委員双方に負担があると思います。今後の評価方法等検討されていくようなのでよろしくお願いします。
- ・ 管理者、世話人が短期間で代わってしまうのはとても重大な問題だと思います。なぜそうになってしまうのか、そうならない様に対策が必要だと思います。
- ・ 指摘内容を拝見し、納得するとともに、本校の卒業生が今後利用させていただくことを考えると勉強になりました。「一方的に意見や要望を伝えるだけでなく、地域の社会資源

として助言やサポートを行っていく必要があります」の一文に感銘を受けました。

- ・新しい制度なので、さらに周知がなされることを願う。
- ・問い合わせ先となっている管理者がすぐに離職され、連絡が取りづらくなるので現場の方と交流する機会があればと考える。
- ・新しいサービスということもあり、担い手が変わるという課題もあるようだが、他市で同系列のGHが評判がよく、活気があり好印象なことがあり、市域をこえて研修会や見学会もありなのでは、と感じている。
- ・グループホームの世話人を対象とした継続的な研修が必要と思います。
- ・協議で打ち出された事項のその後の申告状況を常に明らかにしているプロセスを明示しているのか教示してほしい。

(3)地域生活支援拠点等の整備について

- ・計画が出てから何年もたつが、なかなか進まない感じがしている。個々の課題を単独の事業所が対応しているケースがほとんどで、チームでの対応に慣れてくればと感じる。
- ・要綱の確実な周知をお願いします。
- ・相談支援体制整備の尽力、おつかれさまでした。それぞれの役割が見えてきました。
- ・緊急時の受け入れについて、さらなる協議をお願いします。
- ・障がい者基幹相談支援センターが設置されたことは、障がい当事者としてはとてもありがたいです。まず「相談」ができるという事、これからも機能の充実を望みます。
- ・本市の現状と進捗状況が分かり勉強になりました。本校に在籍する児童生徒の保護者に正確な情報提供をすることと適切なサービス利用につながる助言ができることが、整備が進むことの一助であると考え、努めていきたいと思います。
- ・障がい者がより生きやすい社会実現のため、相談でよりニーズを把握して対応、施策を講じてほしい。
- ・仕組み的には随分整備されていると思うが、精神障がい者の場合、それを充分使いこなせてもいないし、機能していないケースもあるように思われる。
- ・基幹相談センターを中心として、サービス、専門的な相談や見立てなどスムーズに連携されていると感じます。今後、のぞまれるのは、専門性をやしなう研修や人材育成と確保という人的財産になってくると思われます。大学もできたことなので、沼津に福祉の人材が集まってくること、輩出できることを望みたい。
- ・事業実施要綱の制定及び付随する業務について、着実に取り組まれない。
- ・この機能は早く整備できればと思います。

- ・専門的人材養成の今後への期待、事業所間の連携の具体化の提示、現状に合わせた要綱改正とその後の状況を期待したい。

●その他（自由記述）

- ・事業所数が増え、障がいのある方々は事業所を選んで通えるようになりましたが、それがより質の高い支援を受けられることにつながっていない様に思う。事業所は利用者の耳障りのいい言動になってしまっていると感じる。
- ・自立支援協議会を当事者の方々（全体会の委員等は除く）がどの程度知っているのか、関係者間の協議になっていないのか、振り返る機会がありますか？
- ・専門部会の報告から「受け入れきれない」、「限られた職員数や空間で支援する上での苦難」、「自施設内だけでは努力にも限界」、「ヘルパー不足」といった厳しい現状が伝わってきて、奮闘くださっている方々に支えられていることに改めて頭が下がる思いでした。本校の児童生徒が在校中、また卒業後、地域で共に生きる、とは常に考え、職員とともに取り組んでまいります。
- ・福祉サービス事業所ではありませんが、近隣での虐待報道もありましたので、虐待に関する研修を協議会で行っていただきたい。
→ 新たに開所した事業所が増え、障がい福祉業務に初めて携わる支援員も増えている状況です。コロナ以前に自立支援協議会で実施した事業所向け研修会を行うなど、虐待防止研修についても企画したいと考えています。
- ・制度に合わせた運用から、現状から制度改正につなげる今後のトータルなコーディネーター機能を期待します。